先日、EXPO2025「大阪・関西万博」の公式ホームページを 拝見しました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテー マは「命を救う・命に力を与える・命を繋ぐ」でした。

大阪・関西万博がめざすものとしては「持続可能な開発目標(SDGs) 達成への貢献」「日本の国家戦略Society5.0の実現」があるようです。

建築業の労働者が命を意識する時は、建築現場の安全管理です。建築現場の労働災害をゼロにする事は難しく、どこでも見かける安全第一・安全計画・安全行動を充実させるのは簡単ではないようです。だからこそ、労働災害で負傷した方々を適切に治療する保健医療も大事ですね。

私は20代の頃、休日になると大工専校友会の友人たちと楽しい登山を していました。当時は健康スポーツ程度の登山であり、安全第一ではない 登山をしていた事が悔やまれます。

冬期の山岳地帯における登山であれば、アマチュア無線機器も携行するべきであったと反省していますが、それでも「いのち輝く体験」だったという気持ちは、今も変わりません。

それでは奈良県の大峯奥駈道・釈迦ヶ岳の元旦の景色をご覧下さい。



〈釈迦ヶ岳の登山口駐車場〉です。私が20代で登山を始めた頃は、このような状態のリュックでした。今、客観的に見るとデタラメです。

冬期の山岳地帯は気象状況が悪化すると、とても不安になる事があります。雲と雪と風の状況によっては、下山という悔しい選択を選びます。

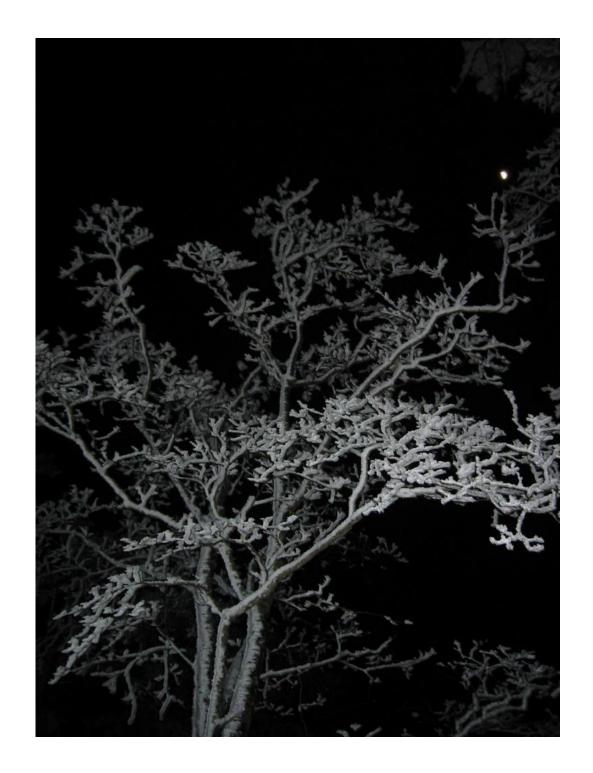
特に強風を受け続ける状況はとても危険で、迷う時間が長いほど危険度が高くなります。



私は登山で遭難した事はありません。本当にLUCKYだと思います。 当時、有料の気象レーダーを活用しながら登山していた事も良かったと思います。「運も実力のうち」と言う言葉も大事ですが、少し危ない言葉でもあります。

現在、初めて歩く冬期の山岳地帯では地図とGPS、アマチュア無線機器は必携だと思います。例えば、この状況で進む事は危険です。

友人と相談しているうちに雪と風で、あっというまに足跡が消えていってしまいます。でも、どこか安土桃山時代の絵師・長谷川等伯が描いた「国宝・松林図屏風」みたいですね。



〈冬期の山岳地帯の夜〉です。テントから出ると、激しい強風が吹いていました。風上を眺めていると、雪女が近づいて来るような雰囲気でした・・・。雪女の I mageは、たいてい美しい女性ですが、その理由に辿り着けたような気がします。とても寒い夜でしたが、大工専校友会に、建築学を話し合える友人がいてくれた事に感謝しています。





〈釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来銅像と初日の出〉 日本200名山に選定されていて、現在の標高は1800mです。



〈冬期の山岳地帯〉は晴天になると、とても美しい風景を見る事ができます。美しい風景から学ぶ事はたくさんあると思います。

安全で美しい都市という理想は、多くの人人の労働と協力、話し合いによって実現する事ができると思います。途方もなく長い時間の先にある理想です。

私にとって『STAR WARS』の時代の都市は、とても魅力的ですが戦争は続くようです。平和はテレビGAMEのコントローラーぐらいです・・・小さなボタン電池も誤飲によるトラブルの原因になっています。

それでは、冬の日にクラシカルな建築短歌三十一文字詠ませていただき ます。

~ 夢洲と いにしへの塚 大鷦鷯

畿内のPOLIS いのち輝く ~